

# プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣しています。広報きくち11月～3月号で、参加した生徒の報告書を紹介しします。

参加報告

## 北中から世界へ ～これからの社会は私たちがつくる～

菊池北中学校3年 村上 柚さん



菊池北中の学校教育目標は、「北中から世界へ」です。今回、プラチナ未来人財育成塾2022に参加し、私たちがこれからの社会と世界をつくることを実感しました。

本校は、SDGsを意識しながら授業や生徒会活動に取り組んでいます。現在、地球温暖化の影響は先進国よりも発展途上国の方が大きく受けています。干ばつや、飢餓、水位の上昇など、ひどいことが起きてしまっているのです。地球温暖化を安易に考え自分とは関係がないと思わず、身近なものだと考え視野を広げる必要があります。

SDGsの17の目標のうち現状で達成しているものはまだありません。日本は水資源が豊富です。だから実は6つの項目を達成できています。達成できている項目は、関係ないのではと考えてしまうかも知れませんが、それは違います。水は地球のものなのです。世界中の水を必要としている人たちのためにも、水を汚さず大切に使うことは、私たち一人一人にできることです。この行動は、世界を目標達成に近づける一歩になります。このように、世界の課

題から自分に何ができるのか、社会にどんな価値を残せるのか、皆さんも考えてみてください。

世界の課題として、「森林資源」についても学びました。私は森林のCO2の吸収力は年々弱まってきたというのを知り、とても驚きました。CO2吸収力を高めるためには、樹木の若返りが必要だったので、里山には雑木林の所があります。そこを可能な限り手入れをして、CO2吸収の場にしていくことが、CO2削減につながります。CO2は人工的にも削減が可能ではありませんが、その分、エネルギーがかかってしまうため、CO2削減は自然の力でやっていくことが一番なのです。

このような世界や社会の課題を解決するには、多様な解を考え続ける力が必要です。また、「リーダー」の存在も大切です。私は講義を受けるまでリーダーとは、チームをまとめる役割で、リーダーによってチームが成り立つと思っていました。しかしそうではなく、リーダーとはフォロワーあってこそそのリーダーで度をとるのではなく、支えてくれる

を飛ばされ、嫌な思いをしたことがあるそうです。その時に、日本はなんて住みにくい環境なのだと思つたと話されていました。顔も違えば考えも違う。みんな違っていい。一人一人の個性が生かされた社会が、これからの未来の日本にふさわしいのだと、話を聞く中で思いました。

地球に人間が存在する限り、さまざまな課題が永遠にあります。戦後77年高度経済成長により、日本は外国の支援と共に素晴らしい国を築き上げてきました。長い年月をかけて、これまでの日本国を造り上げてくださった方々に感謝して生活していきたいと思えます。

そして、次世代を担う私たちが「暮らしやすい」「住みやすい」と言えるまちづくりを実現するために、人と人との交流を大切に、さまざまな意見を聞き、感じ、そして学び、行動に移せるよう前進していきたいです。

プラチナ未来人財育成塾に参加した私は思いました。考えを秘めているだけではいけない、思っているだけではない、人任せにはいけない。全ては未来の日本のために、自ら行動すべきだということを。

いるフォロワーに感謝しながら、一緒に協力していくことが大切なのです。人によって得意不得意は異なります。さまざまな分野に応じたいリーダーとフォロワーは常に対等な位置関係であり、互いが助け合っていることが大切だと分かりました。

今やりたいことがなくても自分のやりたいことは急に来ます。今のうちに学校生活や家庭学習にGRITして、できることをどんどん増やしていくことが大切なのです。物事を進めていく中で、さまざまな情報に疑いを持つことや、固定観念にとらわれず、さまざまな人の意見を取り入れた上で、自分の考えを常に更新していくことが重要なのです。私もさまざまな視点から問題を見つめて課題解決をしていきたいと思えます。

今回プラチナ未来人財育成塾を通して、さまざまな知識を得ることができました。学んだことを生かしてさまざまなことに貢献したり、たくさんの方に発信したりしていきます。そして、北中から世界へと羽ばたけるように、今以上の自分になれるよう、日々学び続けていきます。

# プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣しています。広報きくち11月～3月号で、参加した生徒の報告書を紹介しします。

参加報告

## プラッとチラッと 熊本から

泗水中学校2年 梶原煌大さん



私は、オンライン授業で3日間、研修で4日間という期間で、今の日本の現状とこれからの日本の未来について学びました。さまざまなお話を聞く中で、先生方に共通していたことは「我々から行動する」ということでした。その中でも、小宮山宏先生の飽和、菊池康紀先生の視野、佐藤真久先生の横とのつながり、村山斉先生のみんな違っていいという言葉が印象深かったです。

小宮山先生は「日本の環境、資源が一定の飽和状態にあるため、今の日本の資源を再利用することで「飽和」が保たれ、2050年までに資源国家へと結び付く」と話されました。「一定の飽和状態」を維持するのはどういう意味なのか考えました。紙パックを古紙に利用することやペットボトルをリサイクルして洋服にすることなどが、「飽和」の意味だと考えます。

菊池先生は「現在の日本で課題となっている事柄の関係を最初から信じるのではなく、疑ってみることで、そこだけの課題ではなく、別の視点からの課題も見え隠れしていることが分かる」と話されました。

この話を聞いた時に、世の中には環境問題、食品ロスなどの課題がありますが、この課題は、問題視される部分の他にも、違う視点からの関係も多く関わっているのではないかと感じました。

佐藤先生は「日本の問題は我が国だけの問題ではなく、世界の問題の一つでもある」と言われていました。また「環境を変えるのは社会であって、変わるのはいわゆる我々である」という言葉が、私の胸に深く突き刺さりました。SDGsについても、解決のために2030年までに達成するのではなく、未来の我々の環境のために、全ての人が同じ課題に取り組むことにつながり、解決していくことが、持続可能な社会を生み出すのだと学びました。

村山先生は「自分が得意とする分野を生かしていくことで、将来の自分の生き方につながっていく」と言われました。外国で生活された先生が日本へ戻って最初に感じたことが、文化の違いだったそうです。例えば、外国で長く生活したことで英語力が付き、先生よりも発音が上手かったため、日本でも英語の授業では発表

を飛ばされ、嫌な思いをしたことがあるそうです。その時に、日本はなんて住みにくい環境なのだと思つたと話されていました。顔も違えば考えも違う。みんな違っていい。一人一人の個性が生かされた社会が、これからの未来の日本にふさわしいのだと、話を聞く中で思いました。

地球に人間が存在する限り、さまざまな課題が永遠にあります。戦後77年高度経済成長により、日本は外国の支援と共に素晴らしい国を築き上げてきました。長い年月をかけて、これまでの日本国を造り上げてくださった方々に感謝して生活していきたいと思えます。

そして、次世代を担う私たちが「暮らしやすい」「住みやすい」と言えるまちづくりを実現するために、人と人との交流を大切に、さまざまな意見を聞き、感じ、そして学び、行動に移せるよう前進していきたいです。

プラチナ未来人財育成塾に参加した私は思いました。考えを秘めているだけではいけない、思っているだけではない、人任せにはいけない。全ては未来の日本のために、自ら行動すべきだということを。